

【参考資料】

[1] 地域の概況

(1) 茨木市の位置・地勢・気候

①茨木市の位置・地勢

本市は、淀川の北、大阪府の北部に位置し、大阪市と京都市のほぼ中間に位置している。北は京都府亀岡市、東は高槻市、南は摂津市、西は吹田市・箕面市・豊能郡豊能町にそれぞれ隣接している。市域は、東西 10.07 km、南北 17.05 km の南北に長い地形をしており、市域面積は 76.49 km² である。

主要な河川には、安威川・佐保川・茨木川・勝尾寺川・大正川があり、市の中央部を流れる佐保川は、中流で勝尾寺川と西河原で合流して茨木川となり、北部を源とする安威川と合流している。また、市域の南西部では、大正川が摂津市域に流れている。

なお、市域中南部及び北部に位置する彩都を中心に、約 33.98 km² が市街化区域に指定されている。

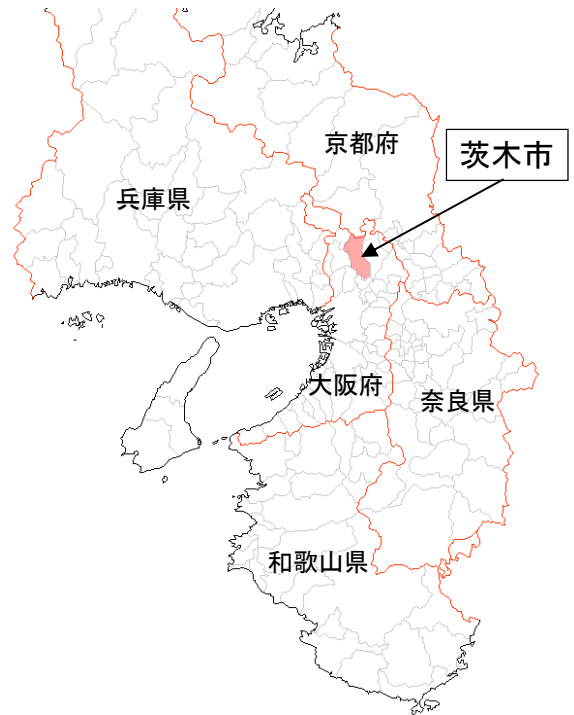


図 12-1 茨木市周辺図

②広域交通ネットワーク

市内には名神高速道路、新名神高速道路、近畿自動車道のほか、国道 171 号、大阪中央環状線など多くの国土幹線や広域幹線道路が走る。

鉄道は、JR 東海道本線（茨木駅、JR 総持寺駅）や阪急京都線（茨木市駅、南茨木駅、総持寺駅）が並走し、市内を走る大阪モノレールには、本線と彩都線（宇野辺駅、南茨木駅、沢良宜駅、阪大病院前駅、豊川駅、彩都西駅）が整備されている。

また、JR 茨木駅は快速、阪急茨木市駅は特急・通勤特急の停車駅であり、新幹線が発着する JR 新大阪駅へは JR 茨木駅から約 7 分、大阪国際空港（伊丹空港）へは大阪モノレール南茨木駅から約 24 分でアクセスが可能であり、多くの広域幹線軸が交差する交通の要衝となっている。

③気候

市域の北半分は、丹波高原の老の坂山地の麓で、南半分には大阪平野の一部をなす三島平野が広がっている。気候は穏やかな瀬戸内気候区に属し、日照が多く比較的温暖な気候に恵まれている。

なお、本市の令和4年の気象に関するデータは下記の通りである。

年間平均気温：17.5℃

最高月平均気温：29.5℃（令和4年8月）

最低月平均気温：5.5℃（令和4年2月）

降水日数（1mm以上）：87日

年間降水量：1058.0mm

表 12-1 日平均気温と合計降水量

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年合計	年平均
日平均気温（℃）	5.6	5.5	11.4	16.8	20	24.4	28.4	29.5	26.2	19	15.2	7.9	-	17.5
合計降水量（mm）	23	15	100.5	125	77.5	147	198.5	205.5	213	89.5	108	18	1321	110.0
月別降水日数	2	2	8	9	9	7	10	11	11	6	7	5	87	7.3

※降水量・降水日数については茨木観測所のデータを引用、気温については枚方観測所のデータを引用

（出典：気象庁）

④自然・公園・緑地

市北部は、棚田が広がり、農業の場であるだけでなく、美しい景観が広がっている。準絶滅危惧種であるオオタカ等の野鳥の他、多様な動植物が生息している。また、複数の自然歩道が通っており、豊かな自然を身近に感じることができる。

市中心部は、桜をはじめ40種類以上約7万本の樹木が植えられた全長5kmにも及ぶ元茨木川緑地が位置しており、毎年春には「茨木市民さくらまつり」が開催されている等、市民の憩いの場として親しまれている。

他にも、市の花であるバラを180品種、1750株を有する「若園公園バラ園」が市南部に、また、水と緑を身近に感じることのできるホテルの鑑賞会をはじめ、本市初の防災機能を備えた西河原公園が整備されている。



清溪地区の棚田（北部地域）



茨木市民さくらまつり（元茨木川緑地）

（２）茨木市全体及び中心市街地の沿革（まちの成り立ち）

①茨木市全体の沿革

本市は歴史上早くから拓けた地域で、古くは弥生時代から多くの人々が生活し、その跡が残されている。なかでも東奈良遺跡から発見された銅鐸の鋳型は有名であり、古墳時代を通じて各時期の古墳が数多く残されている。平安時代には、市域中央部を東西に走る街道の往来が盛んになり、室町時代には、茨木城が築かれたと考えられている。江戸時代になると参勤交代などで大名らが郡山宿本陣（椿の本陣）を宿泊に利用し、現在も、西国街道沿いに建つ本陣は、往時の面影を残している。また、北部地域には「聖フランシスコ・ザビエル像」などの遺物が発見された千提寺、下音羽の隠れキリシタンの里などが今に伝わっている。明治４年（1871年）には、廃藩置県により大阪府の管轄となり、後の郡制の実施で、明治31年（1898年）、三島郡に属した。この年の10月、茨木村は茨木町となり、その中心地として栄えた。



俯瞰した茨木市

明治以降は、三島郡の行政・経済・文化・教育の中心地であり、豊かな米作地であった。昭和23年（1948年）1月には、茨木町・春日村・三島村・玉櫛村の1町3村が合併し、茨木市が誕生し、その後、8か村の合併、編入を経て、現在に至っている。

また、本市は、明治9年（1876年）に国鉄茨木駅が開設され、昭和3年（1928年）に阪急茨木市駅、昭和11年（1936年）に阪急総持寺駅が開設され、大阪市の衛星都市として成長し、昭和28年（1953年）には国道171号が開通し、商工業ともに旧三島郡を経済圏として発達してきた。昭和30年代に入ると内陸工業地の適地として着眼され、近代的大工場が進出し、幹線道路に接する一帯は、京阪神工業地帯の一角を形成している。昭和38年（1963年）に開通した名神高速道路のインターチェンジや昭和39年（1964年）に開通した大阪中央環状線などの多くの広域幹線道路が交差し、交通の要衝にある本市には、倉庫業等の流通関連企業も多く進出している。市南部の近畿自動車道、名神高速道路に近接した位置には昭和48年（1973年）「北大阪流通業務地区」が整備され、地区内に大阪府中央卸売市場が開設された他、昭和57年（1982年）には、国鉄貨物連絡線が営業開始している。

さらに、平成16年（2004年）に本市北部の彩都西部地区がまちびらきし、住宅や公園が整備され、彩都のシンボルゾーンでは、大阪府と連携して「関西イノベーション国際戦略総合特区」等を活用し、新しい研究開発拠点であるライフサイエンスパークには、インキュベーション施設も立地し、新規産業の創出などに取り組む上で大きな資源となっており、今後も積極的なPRや相互連携を進めていく必要がある。



大阪府中央卸売市場（島・野々宮地区）



ライフサイエンスパーク（彩都）

近年では、平成 20 年（2008 年）にサッポロビール大阪工場や東芝大阪工場が閉鎖され、跡地にはそれぞれ、平成 27 年（2015 年）4 月に立命館大学（大阪いばらきキャンパス）、平成 31 年（2019 年）4 月に追手門学院大学が新キャンパスを開設する等、都市機能の転換が進んでいる。その他、本市内には梅花女子大学、看護・医療系の藍野大学、大阪行岡医療大学の合計 6 つの大学が立地している。中でも追手門学院大学、立命館大学は学生数が 8,000 人以上の規模であり、追手門学院大学は経済・経営系学部のほか、平成 26 年 4 月に地域づくりに係る地域創造学部が設置されている。また、JR 茨木駅南側の交通アクセスが良好な中心市街地において、立命館大学は経営学部、政策科学部等が開設されているほか、「地域に開かれたキャンパス」をコンセプトに校舎が建設されており、一般市民も利用可能なホール等を設置するなど、地域コミュニティの活性化に寄与している。

表 12-2 本市内の大学の概要

大学	学部	学生数（全体） 令和 6 年 5 月時点
立命館大学（大阪いばらきキャンパス）	経営学部/政策科学部/総合心理学部/グローバル教養学部	9,654人
追手門学院大学	法学部/経済学部/経営学部/地域創造学部/社会学部/心理学部/国際学部/文学部/理工学部（2025 年新設）	8,791 人
藍野大学	医療保健学部	1,227 人
藍野大学短期大学部（※）	第一看護学科/地域看護学専攻	291 人
梅花女子大学	文化表現学部/看護保健学部/心理こども学部/食文化学部	1,893 人
大阪行岡医療大学	医療学部理学療法学科	200 人

※（令和 7 年 4 月に市外へ移転）

表 12-3 都市基盤の変遷

年 月 日	事 項
明治9年8月	国鉄茨木駅 開設
昭和3年1月	阪急茨木市駅 開設
昭和11年4月	阪急総持寺駅 開設
昭和28年11月	国道171号開通
昭和38年7月	名神高速道路茨木インターチェンジ 開設
昭和39年9月	府道大阪中央環状線 開通
昭和43年12月	北大阪流通業務地区 都市計画決定
昭和48年3月	北大阪流通業務地区 工事完了
昭和57年11月	国鉄貨物運送線 営業開始
平成2年6月	大阪モノレール 一部営業開始
平成4年3月	阪急茨木市駅付近鉄道高架化事業 完成
平成4年5月	彩都 都市計画決定
平成16年4月	彩都西部地区まちびらき
平成23年12月	関西イノベーション国際戦略総合特区指定

表 12-4 市域の変遷

年 月 日	事 項	市域面積(k㎡)
明治4年11月	鹿港置県により大阪府の管轄となる	—
明治31年10月	茨木村が町制施行	—
昭和23年1月1日	茨木町・三島村・春日村・玉櫛村が合併して市政施行	20.55
昭和29年2月10日	安威村、玉島村を合併	28.70
昭和30年4月3日	福井村・石河村・清溪村・見山村が合併	69.69
昭和30年4月15日	東能勢村との境界変更	65.96
昭和31年12月25日	豊川村東部を編入(箕面市との境界変更)	75.19
昭和32年3月30日	三宅村を合併	78.26
昭和32年4月1日	箕面市との境界変更	77.56
昭和32年7月1日	三島町との境界変更	77.26
昭和33年1月1日	吹田市との境界変更	77.82
昭和34年4月1日	高槻市との境界変更	77.82
昭和35年4月1日	三島町との境界変更	75.16
昭和48年4月1日	摂津市との境界変更	75.15
昭和52年12月1日	吹田市との境界変更	75.15
昭和55年12月1日	摂津市との境界変更	75.15
昭和63年10月1日	国土庁による面積値改定	76.56
平成4年10月1日	国土庁による面積値改定	76.51
平成8年10月1日	国土庁による面積値改定	76.52
平成11年2月1日	箕面市との境界変更	76.52
平成27年3月6日	国土庁による面積値改定	76.49

②中心市街地の沿革

中心市街地においては、室町時代に茨木氏によって茨木城が築かれ、城下町が形成された。その後、江戸時代初期の一国一城令による廃城後は、地域商業の中心地であるとともに、酒造業や人力搾油業等の産業を中心に、在郷町として繁栄した。明治9年（1876年）には、官設鉄道（現在のＪＲ東海道本線）が敷設され、昭和初期には新京阪鉄道（現在の阪急京都線）が敷設され、交通の要衝として発展していった。この頃の「大日本職業別明細図」を見ると、現在のＪＲ茨木駅前には商店がほとんど見られず、材木店や運送業者が立地していたことが分かる。一方、現在の阪急茨木市駅から当時の茨木町役場にかけては、多数の商店や銀行、郵便局などの金融機関が立地していた。さらに両駅間の市街地には工場もいくつか含まれており、商工混在の用途利用となっていた。現在の阪急茨木市駅東側はほとんど開発が行われていなかったことも分かる。この昭和初期に両駅間の地区が中心市街地として形成された。

高度経済成長期以降、中心市街地は神社、仏閣、町家など歴史的な資産も残しつつ、個店が集まった商店街や駅前の商業ビルの建設等により、商業集積地として更に発展していった。それに加え、マンションをはじめとする宅地開発が急速に進み、商業地及び宅地が併存する市街地が形成されていった。

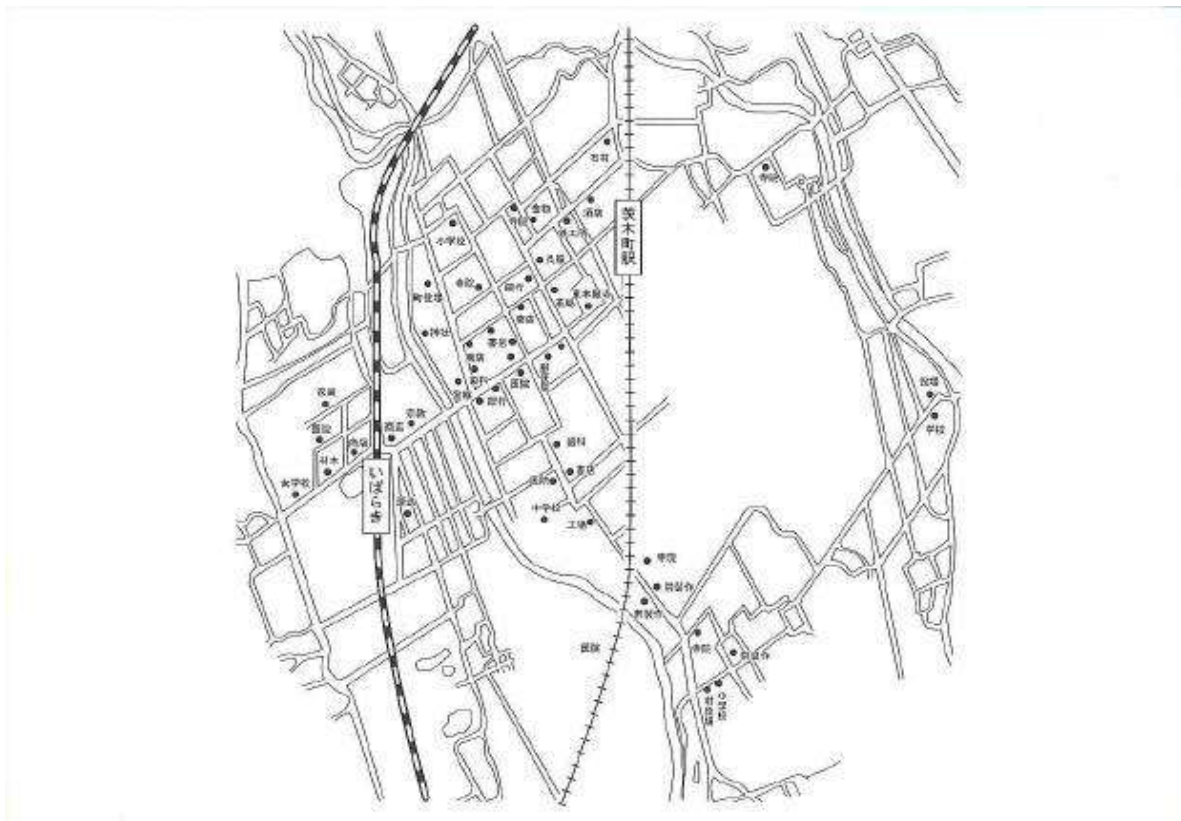


図 12-2 昭和初期の茨木町市街地

（出典：「大日本職業別明細図」第 246 号より作成）

(3) 中心市街地の概況

本市の中核である JR 茨木駅及び阪急茨木市駅を含む地域には、商業・文化・行政関連の施設が集積している。

特に、阪急茨木市駅西側から元茨木川緑地にかけての地域は、古くから在郷町として栄えた本市の中心地であり、複数の商店街が形成されているほか、旧茨木城の櫓門が復元されている茨木小学校や茨木神社、茨木別院等の歴史的・文化的資源をはじめ、男女共生センターローズWAMや障害福祉センターハートフル等の公共施設等が立地している。

阪急茨木市駅周辺及びその東側地域にも、近年に建設された商業ビル、店舗等が多く立地している。

元茨木川緑地から JR 茨木駅周辺にかけても、市役所や市民総合センター等の公共施設をはじめ複数の商店街が形成されており、平成 27 年度には、立命館大学大阪いばらきキャンパスが JR 茨木駅南側に開学した。当初、約 6,000 人の学生数から平成 28 年 4 月には総合心理学部が、平成 31 年 4 月にはグローバル教養学部が、令和 6 年 4 月には映像学部・情報理工学部が開設され、現在約 10,000 人規模に拡大された。

また、令和5年度には、中央公園が位置していた場所に、茨木市中心市街地活性化基本計画（現行計画）の主要事業であるおにクルが11月26日に開館し、開館日に想定を大きく上回る15,000人の来館、開館から1か月で累計来館者数が19万人を超える等、高い集客効果を誇っている。おにクルが開館したことから、市民会館跡地や福祉文化会館は閉館し、その跡地は都市公園としての再整備を予定している。



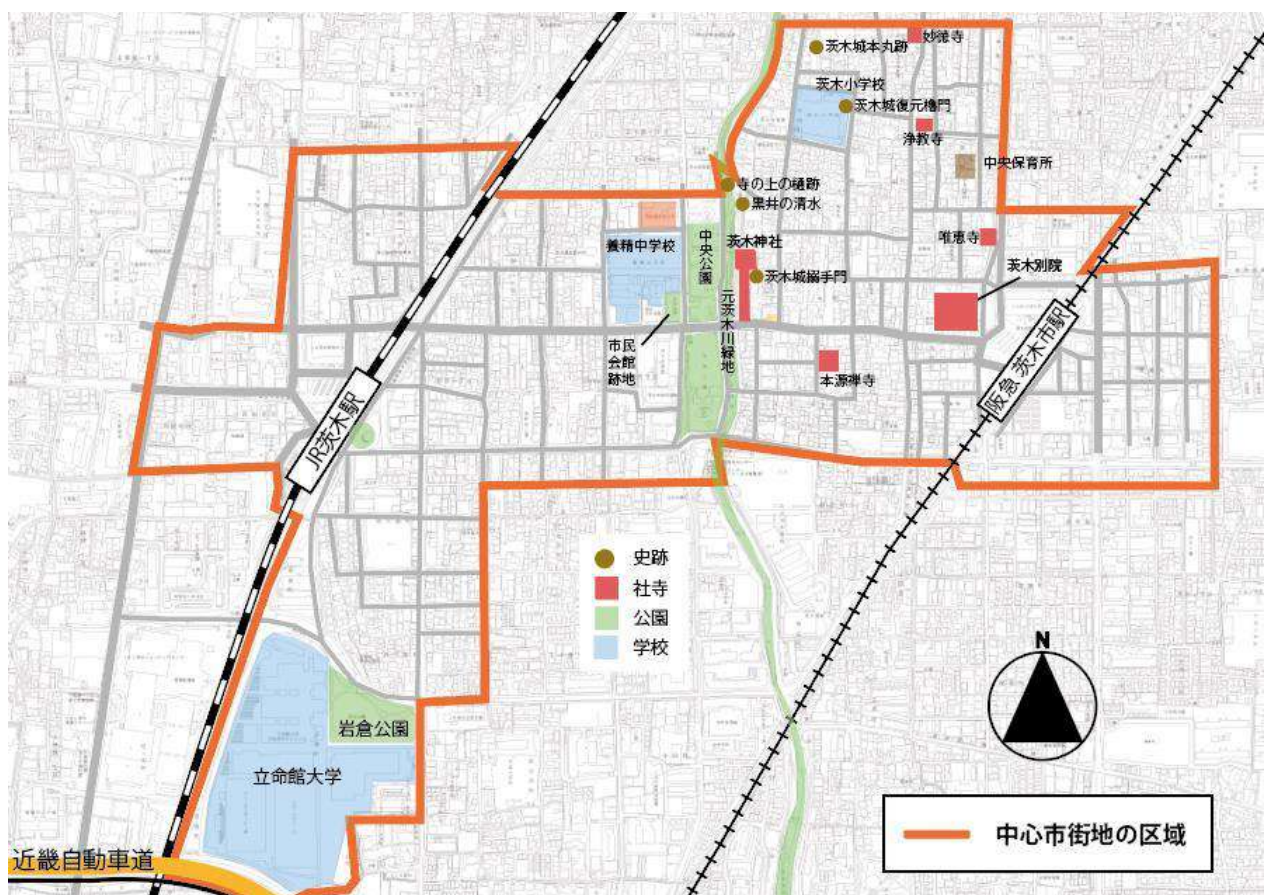
図 12-3 中心市街地の概況（再掲）

（４）茨木市における中心市街地の歴史的・文化的役割

中心市街地においては、かつての茨木城跡地（現在の茨木小学校）で旧茨木城の櫓門が復元されている他、元町や大手町を中心に残存する町家をはじめ、807年に創建された茨木神社や本源禅寺、茨木別院等、神社仏閣も多く残存している。中心市街地を南北に流れていた茨木川は、現在は全長約5km、1500本の桜をはじめ多数の樹木が植えられた「元茨木川緑地」として整備され、大阪みどりの百選に選出されている。毎年春には「茨木市民さくらまつり」が開催されるなど、市民の憩いの場となっている。

JR茨木駅及び阪急茨木市駅の中間に位置するおにクルや中央公園、IBALAB@広場等を含めた周辺には、上記の元茨木川緑地など複数のオープンスペースが立地しており、2日間で延べ約20万人を集客する茨木フェスティバルをはじめ様々なイベントが年間を通じて開催されており、多くの来訪者があり、市民の賑わいの場となっている。

また、サークルや団体でのスポーツや大会、文化的活動など市民活動の場としても利用されており、日常においては市民の憩いの場となっている。JR茨木駅東口の「いばらきスカイパレット」では、まちづくり会社「FIC ベース株式会社」が手掛けるカフェもオープンする等、市民の憩いの場の形成が進められている。





元茨木川緑地



茨木神社



中央公園



IBALAB@広場



いばらきスカイパレット



文化・子育て複合施設おにクル

表 12-5 中心市街地で開催されている主なイベント

開催時期	イベント名称	開催場所	主催者
1月9-11日	茨木十日戎	茨木神社	茨木神社
3月下旬-4月上旬	茨木市民さくらまつり	元茨木川緑地	茨木市
4月下旬	みんな集まれ！！ボランティア in いばらき	中央公園	ボランティアの集い実行委員会
5月上旬	茨木音楽祭	中央公園	茨木音楽祭実行委員会
5月中旬	キッズスポーツフェスタ	中央公園	茨木市・茨木市体育協会
5月中旬	いばらき×立命館 DAY	立命館大学大阪いばらきキャンパス、岩倉公園	立命館大学・茨木市
6月30日	大祓 茅の輪くぐり神事	茨木神社	茨木神社
7月下旬	茨木フェスティバル	中央公園	茨木フェスティバル協会
10月～11月	黒井の清水大茶会	茨木神社	茨木市観光協会
10月上旬	茨木麦音フェスト	中央公園	茨木麦音フェスト実行委員会
10月上旬	IBARAKI DANCE STREET	中央公園	IBARAKI DANCE STREET 実行委員会
10月中旬	A s i a W e e k	立命館大学大阪いばらきキャンパス	立命館大学
10月	BOOK TRAVEL	元茨木川緑地、おにクルほか	茨木市
10月～11月	IBARAKI JAZZ & CLASSIC FESTIVAL	阪急茨木市駅前ほか	IBARAKI JAZZ CLASSIC FESTIVAL 実行委員会
11月上旬	茨木蚤の市	元茨木川緑地ほか	FIC ベース株式会社
11月上旬	いばらきバル	主に中心市街地内の飲食店等	いばらきバルフェスタ協会
11月中旬	茨木市農業祭	中央公園	茨木市農業祭実行委員会
11月中旬	いばらき環境フェア	R4・5 クリエイトセンター、 IBALAB@広場 R6～おにクル、中央公園	茨木市
11月下旬	茨木ヴィンテージカーショー	中央公園	茨木ヴィンテージカーショー 実行委員会
12月～1月	いばらきイルミフェスタ灯（イ ルミネーション）	JR 茨木駅前ほか	いばらきイルミフェスタ実 行委員会
1月～2月	いばらきロカボア	市内一円（飲食店）	いばらきイルミフェスタ実 行委員会
毎月第2土曜	えきまえマルシェ	いばらきスカイパレット	FIC ベース株式会社
年2～3回	ガンバルフェスタ	茨木神社、おにクルほか	茨木商工会議所

[2] 地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

(1) 中心市街地の現状分析

①人口及び世帯数

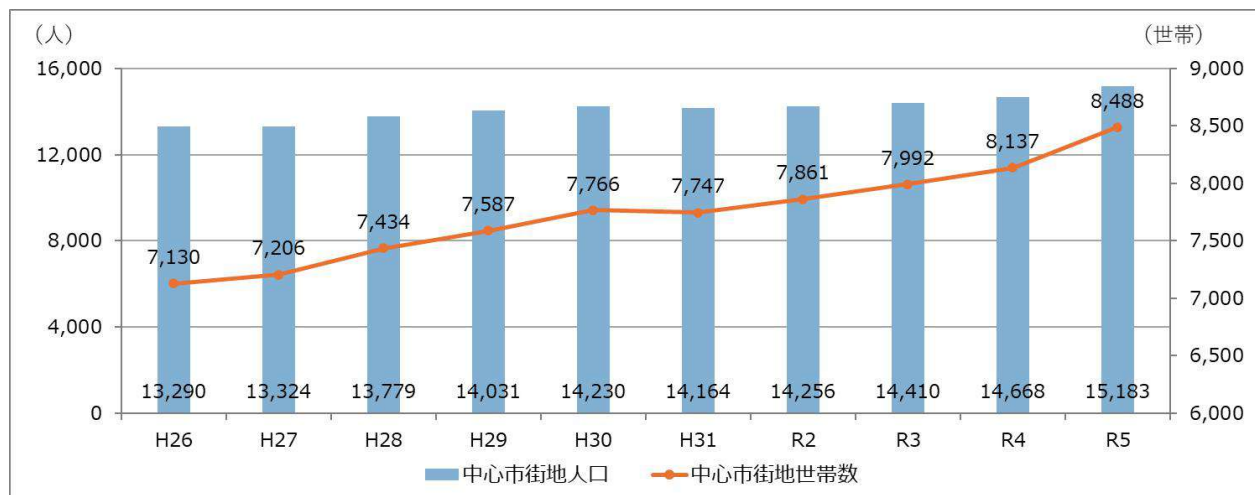


(資料：住民基本台帳、各年 3 月)

図 12-5 市全体の人口及び世帯数

平成 26 年度から令和 5 年度までの 10 年間の本市の人口及び世帯数の推移は、人口 6,636 人、世帯数 11,987 世帯の増加となっている。平成 26 年度から令和 5 年度の 10 年間における、1 世帯あたりの人口は 2.32 人から 2.16 人へと推移しており、単身又は小世帯化が進行している。

また、同期間における本市の中心市街地の人口及び世帯数の推移をみると、人口 1,893 人、世帯数 1,358 世帯の増加となっている。



(資料：住民基本台帳、各年 3 月)

図 12-6 中心市街地の人口及び世帯数①人口及び世帯数

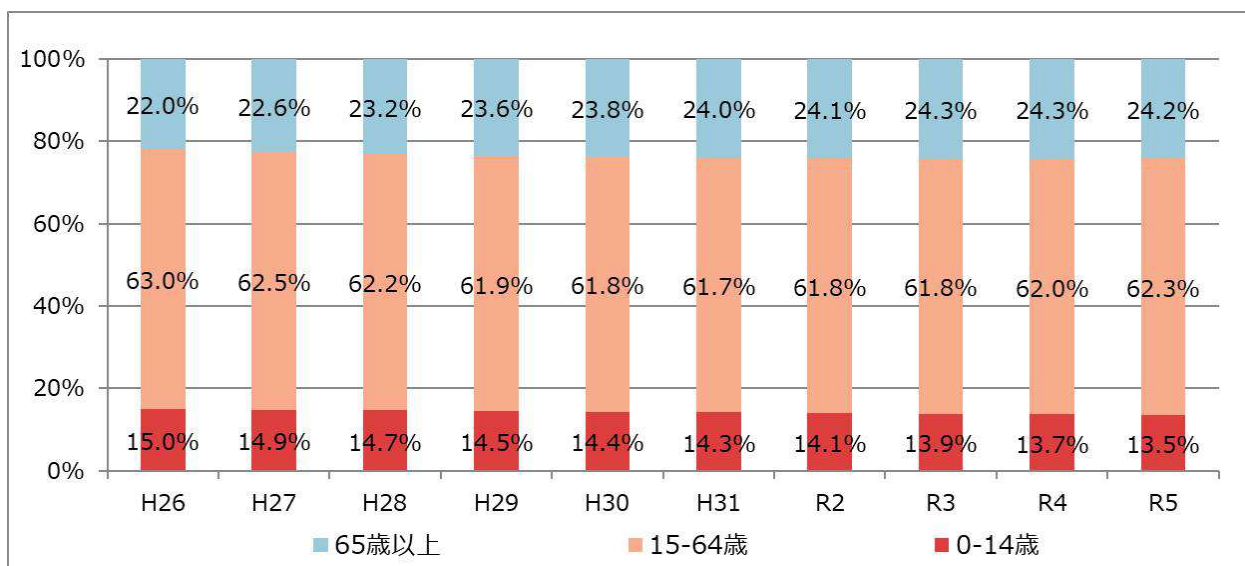
中心市街地区域 16 町丁目

(春日一丁目、西駅前町、駅前一～四丁目、西中条町、岩倉町、片桐町、元町、大手町、本町、宮元町、別院町、永代町、双葉町)

②年齢別人口

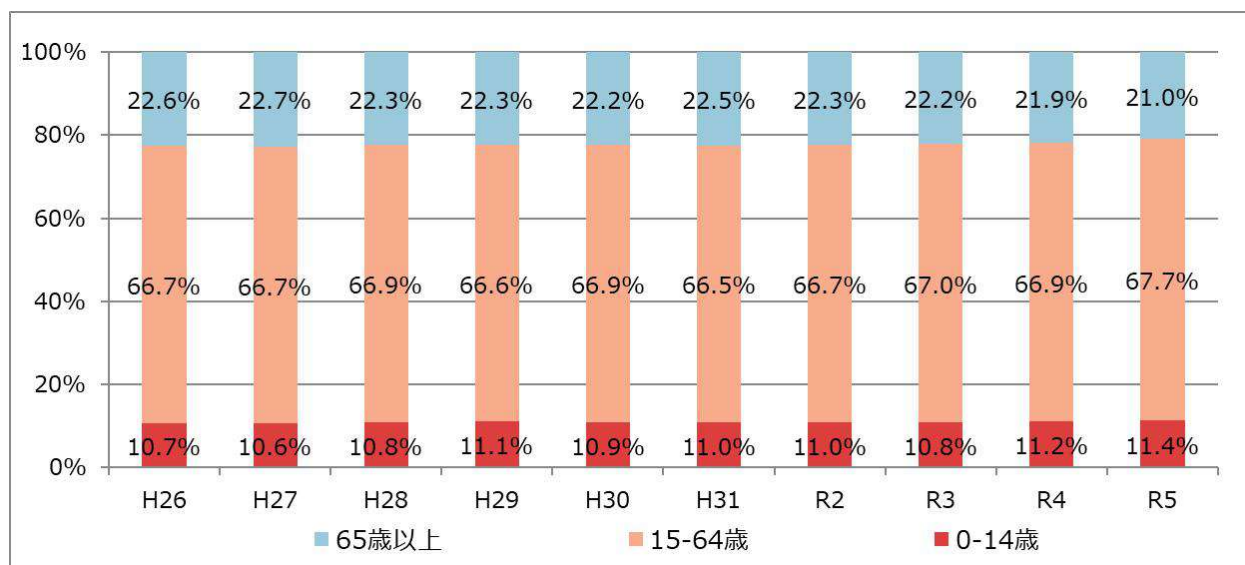
平成 26 年度から令和 5 年度までの 10 年間の本市全体の年齢別人口の推移では、65 歳以上人口については、22.0%から 24.2%と 2 ポイント以上の増加となっている。15～64 歳人口については、63.0%から 62.3%と、約 1 ポイント減少している。また、0～14 歳人口については 15.0%から 13.5%と、約 2 ポイントの減少となっている。

同じく中心市街地での推移をみると、65 歳以上人口については、22.6%から 21.0%と約 2 ポイントの減少、15～64 歳人口については、66.7%から 67.7%へと 1 ポイント増加、0～14 歳人口については 10.7%から 11.4%と 0.7 ポイント増加と、市全体推移の傾向と逆となっている。



(資料：住民基本台帳、各年 3 月)

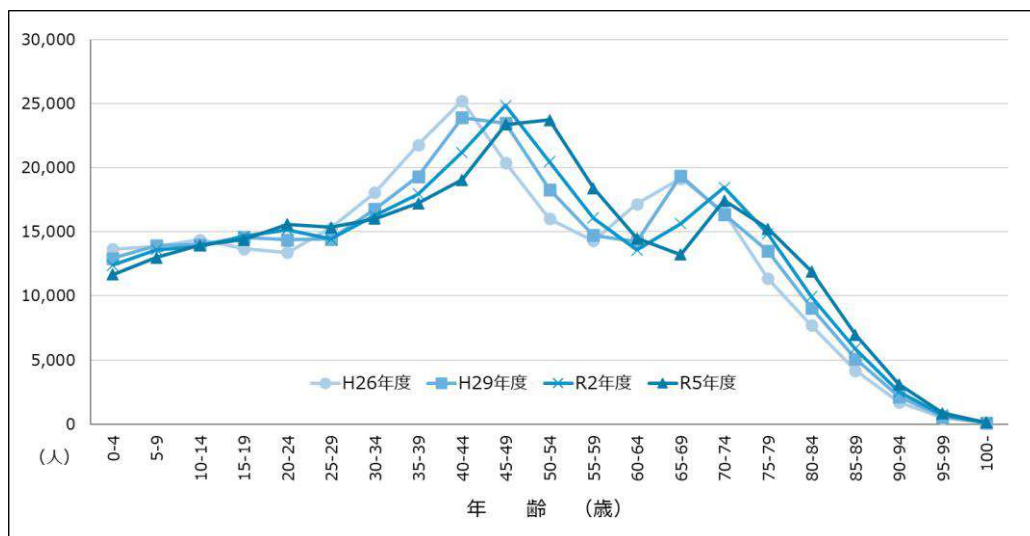
図 12-7 全市の年齢別人口



(資料：住民基本台帳、各年 3 月)

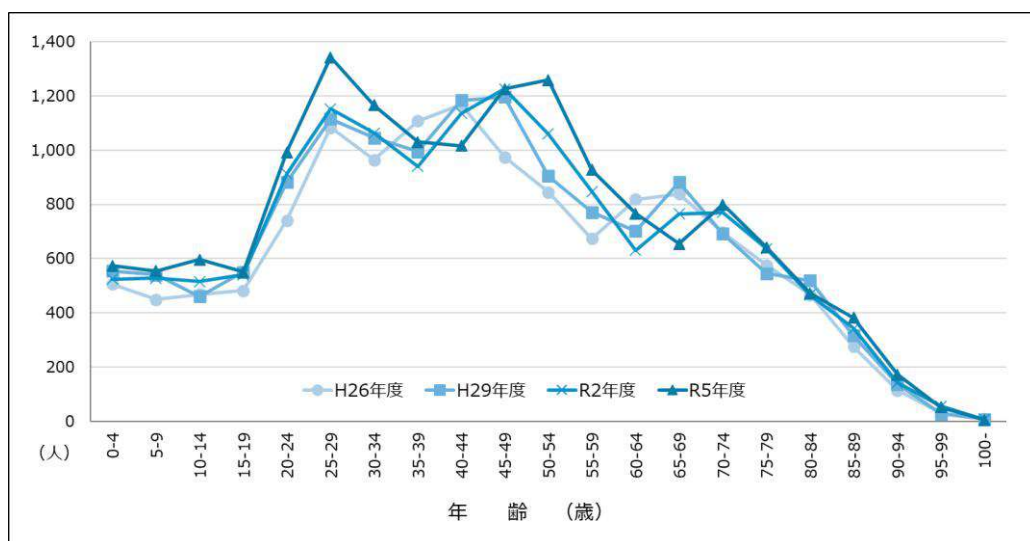
図 12-8 中心市街地の年齢別人口

令和 5 年度における 5 歳階級別の年齢別人口は、市全体では 50～54 歳、中心市街地では 25～29 歳が最も多い。



(資料：住民基本台帳、各年 3 月)

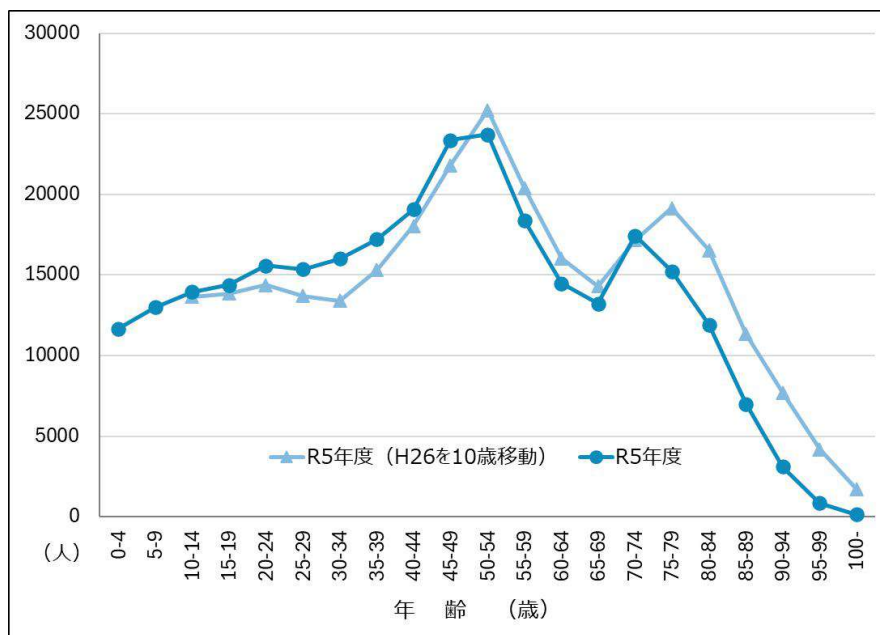
図 12-9 全市の年齢別人口



(資料：住民基本台帳、各年 3 月)

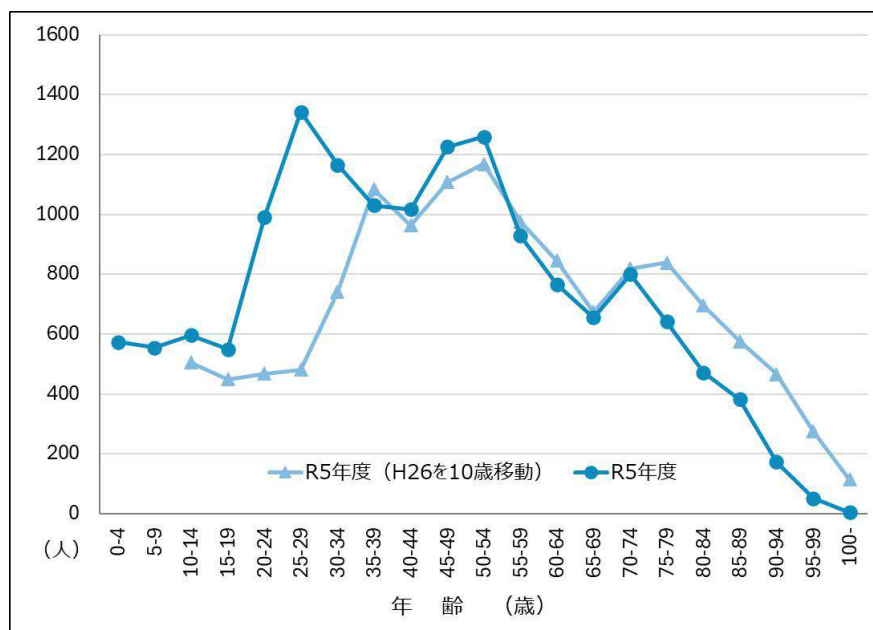
図 12-10 中心市街地の年齢別人口

平成 25 年度における年齢別人口を 10 年移動させた数値と、令和 5 年度における年齢別人口とを比較すると、市全体では人口移動（転入転出）に大きな変化は見られないが、中心市街地では 20～39 歳の人口流入が多く、若い世代の人口が増加していることがうかがえる。



(資料：住民基本台帳、各年 3 月)

図 12-11 年齢別人口の 10 年間推移（全市）（再掲）



(資料：住民基本台帳、各年 3 月)

図 12-12 年齢別人口の 10 年間推移（中心市街地）（再掲）

③人口動態

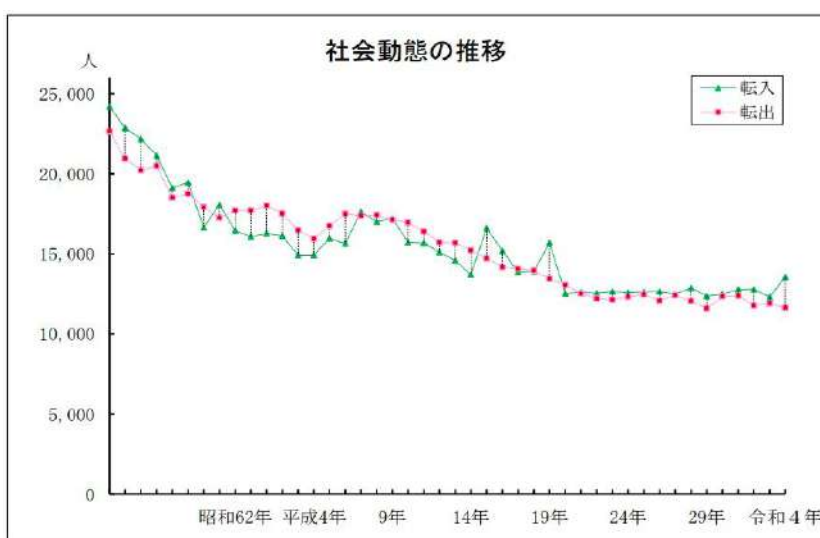
本市全体の自然動態をみると、令和4年の出生は2,230人、死亡は2,727人で、死亡が出生を497人上回り、令和元年以降は自然減となっている。自然動態の推移をみると、出生は、昭和48年の5,399人をピークに減少し続け、平成に入ってから以降ほぼ横ばいであったが、令和元年に大きく減少し、そのままほぼ横ばいとなった。

また、本市全体の社会動態をみると、令和4年の転入は13,557人、転出は11,643人で転入が転出を上回り、1,914人の社会増であった。社会動態の推移をみると、昭和59年までは、概ね転入が転出を上回り、社会増となっていたが、昭和60年以降は、概ね転出が転入を上回り、社会減が続いた。しかし、増減を繰り返しながらも、彩都の開発やマンションの建設等により、平成21年以降は社会増の傾向にある。



(資料：茨木市統計書)

図 12-13 全市 自然動態の推移



(資料：茨木市統計書)

図 12-14 全市 社会動態の推移